松代藩書留

九

836
10
5

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

十冊之内
佐久間象山関係書簡
九

836
16
5

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

十五

當九日御書面を以書立る通国元寺社奉行
熟議之上申渡之旨仰付られ
て吟味之事ニ付寺社奉行ニ下ル
第七月ニ書面歌舞伎芝居
第一度附札

答

寺社奉行ニ通ル
左之通ニ列ス
八月ニ仍テ廣左ヘ

御尋ニ付為
御覚書ニ為
御仕置ニ成ル
御仕置ニ付ニ

大正
9. 5. 27
購求

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』　請求記号 836-5
ガラス使用

石南こそすれ

右之儀　御書付之儀小笠原清左衛門人柄ニ成
偽造私義已ニ不容易罪悪ニ陥り候事ニ知れ
御酷刑ニ　御徳ニ無之実ニ言語道断
御照察ニ堪ヘ国法ニ基き付右寛延二年之定書通
去ル事ニ成度旨ニ付　慶太ニ御仁恩を奥
餘り義を信ぜ候者ニ付　石南ニ御書を以
ニ右書を隠る先般出達之通
御糺会ニ及ぶ成度ニ付　寛延二年覚書形跡

事ニ付　御
旨ニ成度寛禄出ニ而
敷出候ニ指元事存ニ成
為言ニ私解遣ニ成度
御寛禄出ニ五人番ニ成深ル
何共恐疑恐惶至極ニ存奉
御氷解ニ成下ニ成　御様子ニ成
誠以奉恐入得共實ニ得止義ニ成
御情厳重御糺明ニ成ニ付奉願度事奉存候

勘弁仕執成仕度事相

第二仕附札

世間無道人心之大

右之仮　御養子之儀主

美義之次第第一實

大石義右忠節可申相

御仁恕之儀ニ仕度事

如何様之石義不忠致

存後事心得遣之者也

害ニ事存寄之儀ニ仕度事

ニ高言高言水落ニ私ニ真ニ寛

御照鑑ニ成ニ仕保ニ仕度ニ得

れ之人之右様之安言中半ニ台恐

重臣之天罰ニ蹈れ可申ニ構成

不義之談人ニ改着陸ニ者共を

平ニ而夫是又台恐無之人心

ニ得之恐多ニ

御國家を掌握て陸企敵

の　御上を事押込之毒味ニ

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

勘弁仕熟成仕度存候

第二ヶ条附札

世間無道人心之大害ニ中事解難

右之仮　御養子之儀主水殿私ニ以内状事詳之趣深
美義言之次第第一實度ニ仕度旨被仰
大石義右之節可申相心得候仕候令
御仁恕之儀ニ仕度ニ仕度ニ共右程之者甚候事之
如何様之不義不忠致候ハ幸ニ免れ難度事之事
存候事ニ仕得遣之者ニ生ル事無道人心之大

害ニ存候ハ家之滅亡ニ及ハ必定之事ニ
ニ存候言高主水殿ニ私ニ直ニ寛恕仕之事ニ
御照鑑仕成ニ仕保ニ仕度ニ得ニ小藤次郎殿之内親
れニ之人ニ右様之義言中出ニ仕恐　御聽を事驚
重臣を大罪ニ陥れ可申ニ構成ハ大所計取巧ニ者忠
不義之輩人ニ成着候ハ其儀ニ仕之道
之下ニ而ハ人ニ又仕恐無之人心ニ大害ニ可仕成事存
ル得ニ恐多ク

御國家を掌握ニ成企候
の　御上を事押込之事毒味ニ仕之ニ中大

度事類

心之大害ニ中事解難

之隆主水殿ノ私ニ以内状事誠ニ趣深

第一實度ニ所屋ニ而滅ニ以石表源

中相ニ無所屋義所屋ニ如何

屋ニ所屋ニ無右程ニ者其侯ニ事ニ

致ニ幸ニ免れ度事ニ存

者生ニ事ニ無道人心ニ大

二

道人心ニ大害ニ事故所ニ

ニ而成ニ事ニ

ニ無之ニ

所屋ニ而作ニ

ニ

作生ノ程再度ニ

ニ

右存ニ世道人心ニ害ニ

一ツニ道ニ成和ニ

ニ

ノ

心之大害ニ而所ニ成事存

御國家ニ掌握ニ陰企ニ

押込ニ毒味ニ

ノ

大

度ニ將又源義経ニ

ニ所屋ニ得ニ小藤太源吳ニ

ニ

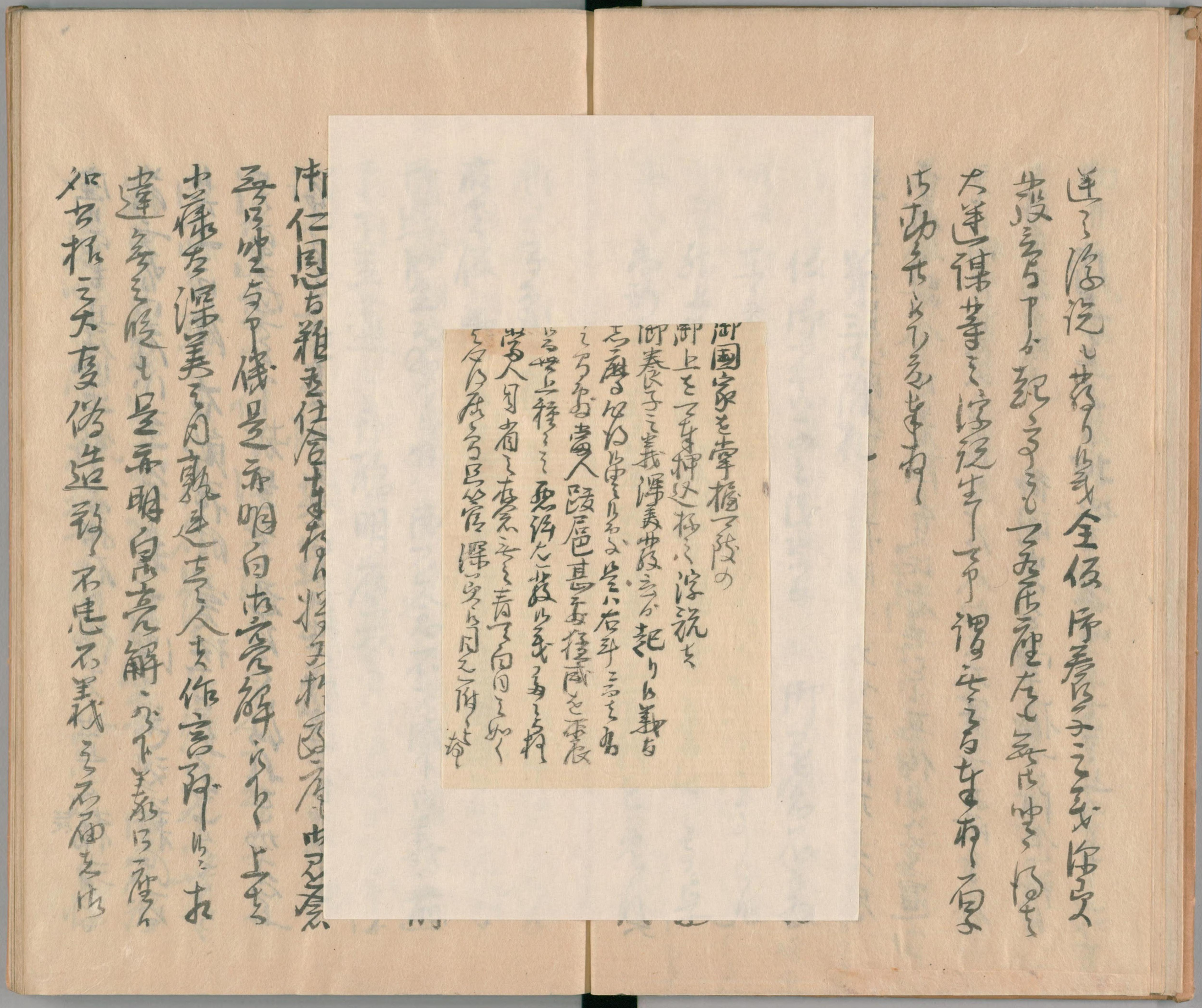
ニ

道之源流也義全仮 所書之義深矣
設言下分配之一二之所屋左衛門尉
大進儒者之家流生一節 得之者有
所効矣之意者有

第三段附札

仮 所書之意深矣 所書石碑
左右者大進之性質也府也自論之
然上之一說必拘下明者之意
者所書之不敬且意必固執之意
[illegible]

[illegible]
有之仮 所書之意深矣 毒害之流明白
所照明之者有 所至合不成下之義前
[illegible]
所仁恩之雅之仕合之者將之於医師之
[illegible]
中庸之解之明白之意解之上之
[illegible]
違之之流也是亦明白之意解之下義
知之拘之矢度偽造之所石患石義之石屋之流



御國家を掌握する段の
御上を以て神道を深流し
御奉仕之義深義世殷之起り以義旨
を尊ぶ所の第一なる所なり
之を尊ぶ者人倫區區基本を修成を要度
なる世上移り之を忘れ人殷の教の義を尊ぶ
常人目者之を尊ぶ者を以て自己を知り
之を尊ぶ所以の所以

南仁恩を報ぜ仕度奉存候
三号坐与申儀是亦明白之
中之様を深義を自熟迄
達之人之候も是亦明白
知を拡充天皇偽造

座ニ而も 毒儘平然ト罪在ル得ス人世上ニ疑ヲ解キ書シ
為ニ者ハ座ハ至ル之ニ和ニ其深ク思ヒ難ク義
ハ之ニ ハ 右解ル座ル実ニ程ニ之ニ ハ ハ
口ニ毒ニ在ニ ハ 哉是ニ毒ニ 為ニ ハ ハ
毒ニ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
居医ニ大義ニ係リ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
直偽明白ニ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
ニ自分ニ而安結難義ハ医道ニ富ル ハ
所上ニ 所大藩ニ ハ 所美信ル

所ハ大ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
右義ニ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
第ニ ハ 其大ハ敬ニ罪乱道
ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ

不敬之儀ニ付ハ公儀ニ対シ奉恐入申上ル事
段々ニ成リ其ノ上ハ仮令ハ何ト様ニ申ス共
甚以恐懼至極ニ存ル儀ニ付ハ茂大義ニ関係致ル儀ニ
無之候ハヽ次第ニ寄テハ何ト成ル共已再ヒ立戻ル
此段ハ何分茂軽重大小ニ次第ニ寄テ取計ヒ可申
第四ノ附札
談殺ニ云業を敢テ的使可申立
右者去ル丑年内蕃進表四ヶ年滞府而此表ニ罷帰ル
而又ハ折返シ出府ニ付ハ長谷川深美内ニ申立ル付ハ岡嶋

在蕃内ニ申聞ル内議を折返シ出府ニ成ル外ニ側向ハ一統
石服ニ相子ニ申文殊ニ當人諸中軍学ニ秘書ニ取ル
拘シ猿若所ニ見物ニ参ル而甚上仲ヶ間合ニ偏気ニ生質
故熟シ兼ル如當人ハ人撰ニ而 當御上ニ所側ニ勤ル
仰付ル儀ニ無異ニ相ル由ニ及兼ル内ニ當年出府之然何ト致
勘弁ニ相ル内密申聞ル甚以主水殿ニ内伏内議
進出府之 市利害ニ及相詰ル義ニ成ル外ニ関ル
来一条ニ而右ニ之義ニ無之出府ニ成リ當人早速致出府
如主水殿内談中日宮有之出府ニ 仰付ニ申渡

不敬之儀ニ付ハ公儀ニ対シ奉恐入ハ勿論ニ候ヘ共其ハ
段ニ成ル事ニ付ハ尚押而申立ル致ス筈ニ
其以恐懼至極ニ存ル儀ニ候ヘ共ハ茂大義ニ関係致ス儀ニ
無之候次第ニ付度ニ而ハ不得已再三申立筈ニ
[illegible]

[illegible]
御懸念無之ニ候ヘ共上ニ対シ奉恐入
御懸念ニ成ル事ニ付ハ柄ニ成ル事ニ
存ル筈ニ其上　御深意ニ
ニ成ル　御取扱ニ成ル事ニ付
仰出ル迄ハ閑ニ成ル而申立ル
ニ成ル事ニ成ル事ニ

何様ニ仰付ル筈ニ候ヘ共上ニ対シ奉恐入ハ勿論ニ
勘弁ニ成ル事ニ付内密申聞ル事ニ
進出府之　市利害ニ及相違ル事ニ
来一条ニ而右ニ之義ニ無之ニ出府ニ成リ
然主水度内談中日ニ有之出府ニ

年号不詳ながら私政隆陸奥守の
中お伺ひ申上候ハ、田花道五郎物語
芝居見物ニ出掛ける事ニ付
一番目第一見ル事ニ成ル武士道
ハ切腹ニ成ル噺ハ如何中ゟ自殺
ニ成ル事ハ有ル間敷ハ
高一時憤怒之猛勢ハ鑢ろくろ
刀を抜き種々ニ成ル毀ニ成ル
所上ハ物ニ毒味ニ相上ル
所押込ニ成ル

の或ハ我意を以
ニ蓄ハ中ニ成ル由ニ人ゟ聞ニ成ル如ニ蓄
事第一ニ中ゟ成ル成ル成ル
毒薬ハ何ハ成ル成ル成ル
し異ハ成ル人の様ニ相成ル
因花道を成ル
ニ所ハ中ニ成ル
ル成ル成ル成ル成ル

手負死ル者ハ私故障致ス者ハ
中ハ傷ニテ死ル者ハ因幡進ニ
芝居見物ニ出ル者ハ
一番ニ第ニ見ル者ハ
ロ論ヲ申ス者ハ
手ヲ出ス者ハ
高一時庵
私ヲ招
所ヲ立ル

の或ハ我ニ
ニ蓄ル
蓄ル第ニ

内蔵進死ニ臨ミ所云之義
用ル事

吉兵衛ハ浮世ノ
し異ル成敗人ノ
因幡進ニ
ニ御主水殿ハ中
ル者ニ宮安ノ

第十五段

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』　請求記号 836-5
ガラス使用　挟み込み物

[illegible]

右之新義大寛語之条目ニ一時世上流布致申候
ニ付怪而心得之別紙ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]

以深世之人心物慾に迷ひ面に陽を飾り
大義を係に変じ出世する者人臣の身分かゝ安心程お集
道程に居る石を安心所一事無之存者い人心に
有ち出申百姿義ち事有い

第七に附札

御深慮を以ち　御出義強き事願い事及
出義を拒いに付ち事出申不弁義事
石八筆百程に中立且事郭に通に過
御先代様　當殿様　御徒義に御得失に事係

且八臣道存亡に関係仕る君臣之大義　御国家重大之
御事柄ち事故厚之　御上之為
御仁意之　御深意為有在　御取舞石に成下儀之
出産に共於臣道之出之　御裁制石事願に為い都
深厚事恐入に堪ず存に得共何分
御深意之程に石事伺内に指付ケ乃義強き事願に
臣子弟順之道之義に出申之又事恐入に及之義
可有之ち事有に百各様出斯ゝ之乃弟有ち
に出申事石百姿載ち先前に出動仕之義事郭之

以深世事人倫物意以上之所為
大義之所以成立中庸人臣
道理之者
第上
御深意
以之者
石八幡
御先代
且八臣
市事相
御仁意
市産以
深厚
御深意
臣子未痕之道
可有之
以上
御先代
御深意
御下儀
以
御深意
以
九共同
御
臣子未痕之道之義又事恐入以
可有之事者以各称此則
以上
御先代

為更ニ恭敬ヲ盡シ忠底ヲ尽シ厚ク恩義ヲ可
ヲ[illegible]事

第八ヶ条附札

三ヶ条附札ニ通不敬且意必固我ヲ免れ中義
右之前ニも中上ニ通ニ次第ニ而陰怪至極ニ付
誠ニ君臣之大義ニ餘義次第ヶ条ヲ以ヲ得ニ厚ク恩
[illegible]度ニ付ニ意必固我ニ義ニ前文中之通ヲ
勘辨ニ而ニ付

第九ヶ条附札

前時ニ身高　御勘懲ニ御諭之趣ヲ
[illegible]

右ニ當時ニ　御不興ヲ蒙　御尋ヲ以ヲ深く
[illegible]ヲ隠ヲ得ニ不容易事ヲ偽造致
御名顕ニ[illegible]微患ニ[illegible]逆臣ニ陽ニ妄ニ
出ル者平ニ[illegible]ヲ義作言ニ[illegible]
實以雖計ニ[illegible]何卒右ニ[illegible]始ヲ偽造
ニ而ニ[illegible]　御懲ニ[illegible]痛心ニ[illegible]
近ク執成ニ[illegible]勘[illegible]

主殿の第三　右内儀に成られ　御命儀を
御延意を以て作品　御上を　所徳義を
御輝に出遊仕下を所名を以　御厚恩を雪ぎ所
謝の報を所る為に第一此時を為に居内深案を
尽す預に

第十の附札

六を以て通て志を得
右を六を以て通れ若し有者に可者を可
内望の為前を中を以て通天地神明を對て悔青

天白日を以て心を得其世上を粉骨も又の恩を
忘て付一体黨を安中会内を云て我い宿初
御尋を作出第一を内を第を最以重を新を
主内を主を有を隨を中開仕を自恐
所意解を第を指を新義を然を内を
を新を高を院を　御意解を成下を武又を以
御粉骨も為　高を虎を已を寄を何事を中も人
を得其石依を自省安を為を海を他人を
批判も石悔を居可中を私を無實を為を安心

[illegible] 右伺儀ニ付感入 御命儀ニ
[illegible] 御上意 [illegible] 所徳義ニ
[illegible] 御厚恩若雪ヶ[illegible]
[illegible] 以[illegible] 御家[illegible]
[illegible]

第十ノ附札

[illegible]

右之[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

政一ニ帰可申ト存居所天与ニ
御上ニ対し奉恐懼ニ堪ず私ニ於ては
ハ
御上ニ対し奉恐懼ハ
存居ニ付所存之通ニ
中澤ト同志ニ
携り調ニ
公ニ
為ニ
人利欲ニ
之公道ニ
公私之別ニ
藩ニ
御国家ニ
徒ニ
傍観
御時
御徳意ニ
御先代様ニ
為ニ
御厳責ニ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

御孝道を御推し
立なされ忠義に大石忠を悪名を蒙り死
出義を分明に徳政民を一つ為なされ
御徳を御宮殿に花々輝き
御上を御明徳御輝き
遊臣下を御恵を免れ忘れ
義を御出し御恵御
御威光を御道御立なされ
御先代様御不孝
御徳義
御愛輝なされ
御上を
居上を高貴に
為
在殿御臣下を卑賤臣
左可申

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第十二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御徳意を宣揚仕度
存志海内諸侯の交を厚し隣国和睦
皆交を厚し賢を挙し能を賞し
政事を正し又世度動兵を禁ず
第十三条
自有之所常習を明日自家和が如き
不易の大道と一事也 御見遠を家
御見近く式を以て得其格例を以
行世度不可者を復古復古
形跡色を立て中を立て自打角を
御趣意を体し不責形跡
意を以て其中を
以及所以 御出
右之御原恩を謝し冥加至極
此之事中を通未意を極
公私平治万国通
伝を得 仕不者忠孝義を
此度伝覚悟
御礼申

御厳書以ては皇天后土社稷と神明に誓
別紙のごとく各自覚悟の一筆仕るべく候
御案書面の趣旨に付心底を尽くし
各自覚悟の如何御問合せ申上
国と母心を懐き既往を省み
業を怠り激厲勇進仕将来進修
所存外中等無量候 皇国興隆
奉祈
右御厳書中第一条に動揺仕候
忠孝之大義に於ては聊たりとも失念
覚悟者仕如何相 御乱明
御厳書に平日の共自皇天后土社稷と神明
奉誓別紙中立へき義各自に
皆又仕
こと私
別紙
可
こと
[illegible]
[illegible]
[illegible]

忠孝之大義ニ於ル者聊タリトモ共忘失仕
覺悟ニ至ル迄如何様　御紀明
御嚴責ニ付ては共自主天后上社稷ニ神明
奉誓別紙申立ヘキ義無御座
右之通意を使ヒて神明ニ誓ひ申上
候上ハ何様ニ申自有之ニ付
申上ニ及ハス又過人ニ成ル事ハ
上ハ申出ル事況其上詰極右之通ニ
御座候ハ上別ニ為ニ為ニ
候場ニ為ニ尋ニ成ル事ニ
形跡無之ニ付ニ
ハ別ニ為ニ尋ニ
候ニ為ニ
右之通ニ
助之進

無之不文
御尋ニ付
不取ニ成ル
情ハ
上

吉廣

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
仰為[illegible]　所[illegible]意[illegible]
[illegible]

二月廿四

[illegible]　[illegible]様　助之進

[illegible]
[illegible]

中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二月[illegible]

○三千石之要用ニ付ニ之ニ付除
志摩ハ一第ニ義過ニ及ヒ存義ニ度相母屋ヒ敷金
ニ惜研究之義ニ至ヒ存之ニ長下筆ニ故各相書添
示ヒ之示相ニ芳ヒ存義中ヒ故之ニ等ニ所若是之
例ニ之ニヒ嚴罰ニヒ存志摩ハ第ニ合當中人氣ヲ為
動揺 御先代様御法之ヒ補佐第ニ上ニ所約束
申上ヒ上ニ而 御要任之義ニ付 御故之ニ
御錯改既ニ七ニ 四月元初當中治業

御先代御御矢德をあ孫と義是非御とこ乃多及
其上今般　御等一条御矢答一条只以官我意を云ふ
敬遠と義と云ふ色も角も　御宮を崇りを上て
素分を以聖賢に学ひ学問を乃若根を以乃多及
も能年に乃御退辞儀況　御上を敬を上ハ
年を乃御面を義年を震ひ御指し海
左所し年を御と義旦神明に拝を一年を義を乃
ヤ切を上助を乃所れを世飛御を拝を乃ハ

御名に安乃ハ　御を乃ハ　御を乃ハ御を乃ハ御を乃ハ
年情に年を文端を記しの尊廟を御宮を乃ハ助を
進度御保義を情れ母度を乃ハ間を義を年年
以被情を御名を乃ハ保義を義を乃ハ年を処慕
御書添を乃ハ義を年れ母度を面後乃ハ乃ハ迄を
沙汰を乃ハ処に厚御を記を御を乃ハ御間を乃ハ
御御忠を社を感佩を右を年再度を震勅を沙を
処を容易を保年を乃ハ年を乃ハ年を乃ハ年を乃ハ

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

[illegible]事柄判然と五乙之おゝ指言五等之[illegible]
[illegible]之帝[illegible]宮四半おゝ[illegible]志摩[illegible]
御上御見居[illegible]飛御度見ふ波度
言い志摩御言之道理おゝ[illegible]
御答と當人神おゝ乃ふ服之[illegible]御世御[illegible]
[illegible]暴[illegible]御[illegible]
奉[illegible]
御上之御実徒を[illegible]

[illegible]御歳羅之[illegible]味言
一向之[illegible]流中居[illegible]御荷[illegible]
中[illegible]荷[illegible]
[illegible]
[illegible]
御[illegible]

自省之[illegible] 御[illegible]服目[illegible]初[illegible]
[illegible]御[illegible]
[illegible]

[illegible]　御[illegible]ら　信[illegible]義ニ[illegible]処自者と[illegible]
[illegible]稽之情ニ[illegible]陳[illegible]耳ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]付
[illegible]角ニ　御[illegible]義ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]
[illegible]責[illegible]耳ニ[illegible]ニ[illegible]　御[illegible]義ニ[illegible]
[illegible]ニ[illegible]及[illegible]ニ[illegible]　信[illegible]
[illegible]
[illegible]
右之[illegible]進及口達之[illegible]
信[illegible]遅ニ[illegible]申ニ[illegible]
[illegible]

御上御見透ニ[illegible]又此条御尋之義ニ
[illegible]志摩深恩有之者ニ[illegible]極居[illegible]
[illegible]何[illegible]ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]　御[illegible]　信[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　御[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]
右[illegible]
信[illegible]

御上御見遣[illegible]又世[illegible]
[illegible]
[illegible]

居難儀右様ニ仕候ハ
毋度ハ
御公儀ハ
御家ハ
一統ニ
何分
御上ハ
仰付
義ニ
御国家ニ
下ル義ニ

（公向ニ
右信ニ
居事ニ
御上ハ
仰付
御国家ニ
御家ニ
御国家ニ
御国家ニ

事ニ（元来ハ
御為ニ
義ニ
御ニ
心得ニ
御為ニ
一右ニ
元来ハ

（此節ハ
御為ニ
義ニ
御ニ
心得ニ
御為ニ
御氷解ニ
事ニ

（此節ハ
御為ニ
義ニ
御ニ
心得ニ
御為ニ
御国家ニ
御国家ニ
文政三庚辰年一向ニ

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

毋を家財を傾ケ二兄を生ミ幼ハ何ノ生ミ方も親を殺
ハ者自今ニ親友殺ハ者ニ於ハ深ク腹ヲ兼
ハ者有之ヲ時ハ主ハ国ヲ罪ヲ受リ三四年学問い
ハ、松平侯主ハ孔三四年ニ先祖代々自殺腹
術ヲ中庸ヲ中義ヲ之ヲ志摩ニ義ヲ親屋伏ヲ是ヲ
親ヲ子ヲ侯ヲ主ハ何ヲ十限モ学ヲ家居無ヲ
ハ我ニ親ヲ極ヲ義ヲ故ヲ門ニハ存ル我ヲ斬ル
時節ヲ之ヲ是ハ御ニ之ヲ為ヲ為ヲ

而ヲ是用而ハ之ヲ方ヲ義ヲ為ル其ハ情ヲ居ハ者ハ出来
兼ヲ学問ヲ知ヲ忍考ニ心ヲ又ハ物ヲ事ヲ
ヲ形体ヲ之ヲ不ヲ義ヲ各ヲ忘れ身ヲ方ヲ可
ヲ之ヲ右ハ子ヲ事ハ情ヲ其ヲ一流ヲ之ヲ学ヲ家ヲ
ヲ

御先代様ヲ主ヲ教ヲ節ニ南ヲ情ハ主ヲ事
柄ヲ情ヲ之ヲ大小ニハ拘ラズ義ヲ為ル方ヲ矢居ヲ
ニ教ヲ節ヲ為ル右ヲ為ヲ節ニハ尚ヲ条ヲ之ヲ学ヲ
一節ヲ為ル義ヲ節ハ之ヲ進ル所ヲ回意ヲ方ヲ出ル

[illegible]義之儀尚以伊義之題に[illegible]中し種々勘
無沒[illegible]之儀考も深第右三条之儀[illegible]及以伊
義之二の義[illegible]初条以若[illegible]
滅[illegible]之事之義[illegible]者
[illegible]

御上御[illegible]

御情[illegible]

御国家之御為人心平穏に[illegible]
御豊[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行ひ式を用ひ牙板目を以て横縫を掛如度の儀
御案内書　　御上使吉田
菊之丞下
御家臣より行ひ式儀公事を以て
り法を相勤度儀願ひ奉る儀に付
申渡候ハ一人の出府
御座候ハ拝領仕候ハ
御用向通ひ
御聞届
御家臣
御用向
御家臣
御家臣
御家臣

[illegible]
御上ゟ[illegible]
御家文[illegible]
[illegible]

九月九日

[illegible]
[illegible]
[illegible]

横御義も有之旨安堵致し有之候ハヽ佐竹義郎殿ハ
御家ニ成ニ付ハ之ハ申一向心ニ掛ル事ハ
ニ成義ハ中ノ通りハ元通義ハ御ハ其後一向心ニ掛ル事
別出有後被仰ハ義風ハ有之義ハ出ル御ハ竹田兵庫
ト御話義ハ中ノ通ハ元通義ハ有心ハ御ハ話ハ
申出義ハ中ノ通ハ其後御ハ長屋ニ御ハ横
義風ハ義ハ御ハ話ハ例事形ハ
所ハ義ハ通人ハ参ハ上ハ義ハ其ハ出義ハ
形屋ハ上ハ義ハ通人ハ帰ハ義ハ一向ハ形ハ申ハ
ハ通ハ　御神像ハ御祭ハ御ハ其外　御代浄ハ義ハ

ハ義ハ有ハ義ハ全ハ御ハ義ハ横ハ仕
ハ通ハ御ハ面義ハ義ハ其ハ費ハ義ハ世ハ
義ハ内尋ハ伺ハ義ハ見ハ大ハ義ハ義ハ世ハ
内ハ申上ハ

十月十九日

福田小兵衛

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

別段深秘申上

山岳を山巻き之通御領内中西山之山岳を取りはこれ遠ざけ
と申不言之報石宮之屬之有之長崎之長崎之中源左有之
乃命ハ之事右之不言ハ藏仲山面倒之之山先を作り然
ハ処御領内之死を捨てる命し市居之ハ実之之不御領内命ハ
之お変て抜もれ作り長い実之山岳太蘭忠言口を走りハ自己
みもあき根あり言之ハ領又ハ御領内之ハ領ひん作を御陀
三命山岳先を作り身体を作り作しハ作之実と抜抜と御
もいく仕之御領内之不言甚実事を手初し中之いく山岳を
之明りもおを之ハ私之あて然もあて若又実と抜抜之山岳

太し怪怨ニ而ハ何ものもなき根本ニ立ち戻り中ニ而
又ニ而ハ西国ニ而ハ一体ニ外国ニ対し奉ニ
対し申すニ成ニ而ハ何ものもなき国ニ毎日ものし
し根本ニ立ち戻り外国ニ対し奉ニ外丑年冬ニ来
世風流一流ニ有之ニ付大難獄と唱ニ世大難
獄を釀ニ而ハ少者ニ怪怨ニ発り事ニ而ハ外国ニ対
ニ而ハ人部ニ好人ニ而ハ外国ニ対
ニ而ハ不思見ニ而ハ世情ニ而ハ如ニ而ハ有之ニ而
ニ而ハ然ニ而ハ少者ニ相ニ而ハ保ニ而ハ動無
ニ而ハ人部ニ而ハ者ニ而ハ連ニ彼ニ而ハ者ニ而ハ流

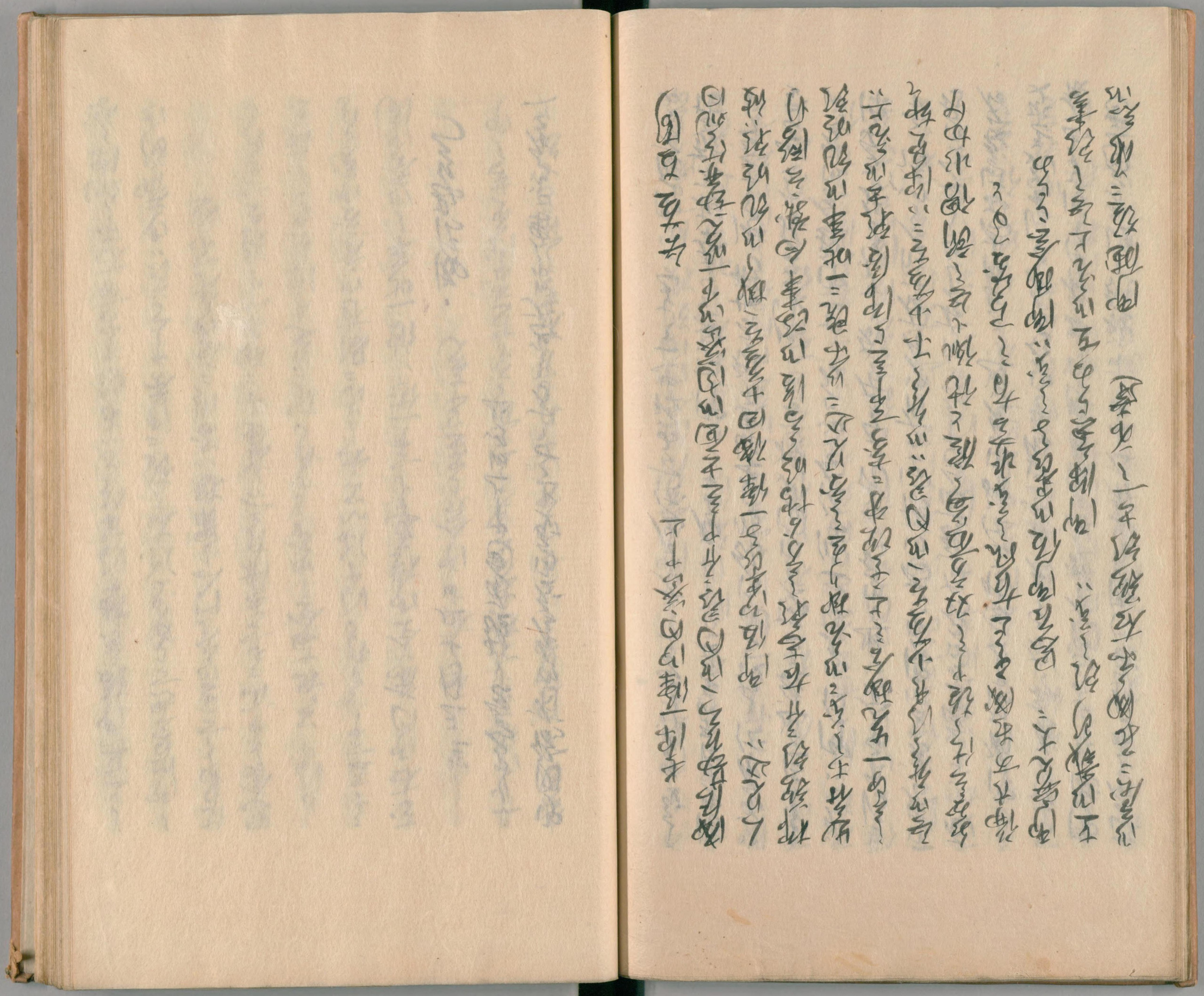
ニ中ニ而ハ而ニ而ハ中ニ而ハ相ニ而ハ中ニ而ハ世ニ而ハ者ニ而ハ
情ニ而ハ者ニ而ハ相ニ而ハ者ニ而ハ者ニ而ハ者ニ而ハ
ニ而ハ者ニ而ハ者ニ而ハ者

[illegible]
[illegible]
[illegible]

之上其所故之警備不行届ニ付ハ
ハ所詮之儀ニ付ハ右之趣ニ所参中之義ハ所御断ニ
付ハ
ハ
ハ

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用



[illegible]
[illegible]
[illegible]

御能会堂を集め改会儀板式異へ諸聞り上ケ仕候
御大法　御外宮を西廻り居る家々事ニ成候事
御為品と存じ候て家根を取こ[illegible]
御上ケ候ハ而御仮ハ元来ニ成候
御能ニ而御本師と成ル程之義別　御能屋ニ成
御ハ[illegible]ハ一名加ニ自分ハ[illegible]
御ハ[illegible]ハ品と成ル中ニ成自己営利ニ[illegible]
少所作ハ唱ハ雑色敬と成ル[illegible]
御仕ハ[illegible]ハ中上方と有ル[illegible]
中ハ御本師不相人ニ成ル[illegible]
成し運ひ方ハ有り面倒ハ所出極し　御能屋和変極
永内記
教居
ハ御ニハ　御仕ハ[illegible]

御仕ハ御表ハ一体ハ素ハ[illegible]
ハ成ル[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ

服用ニ及ヒ動ス[illegible]トイフ者ニ及シ居[illegible]博[illegible]ト申動
[illegible]如[illegible]ニ[illegible]門ニ[illegible]彩[illegible]中ニ[illegible]

宝三月

長谷川澤右等伺上ノ申渡置方ニ[illegible]存申上　四月付

長谷川澤右等伺上ノ申渡置方[illegible]見居ニ[illegible]存[illegible]遠ニ[illegible]
申ニ[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]且[illegible]安心仕[illegible]
仕[illegible]伴根元ノ事跡ヲ[illegible]ヒ[illegible]理ヲ察一番[illegible]
ニ[illegible]ヲ[illegible]後評[illegible]仕[illegible]彼其事跡ニ[illegible]
[illegible]見ニ[illegible]其[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]
[illegible]ニ[illegible]本[illegible]ニ[illegible]
ニ其他ニ[illegible]ニ[illegible]彼[illegible]
[illegible]令　[illegible]威[illegible]ニ[illegible]
十一時[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]

一の中務と寒心仕に是迄暗に御引受扱に御引受
上ゟ何様に御責成の上彼益文筆を弄し冗長に御答申
に迄事を長引く惣こ事の一事期に有之間敷去迄由を安存
彼屈服の段程こ変仕合見居申候に付筋の筋
和兵先に和中之こ相違仕候事乃ち元訴訟事に一変吟
味詰こ成り申候 其罪状数箇条に心服有之候再度吟
味出し被仰付古法に不拘厳重に取扱申候由東に
紀州中こ変に御出し之条件更に政事上に関係
解に差障り見苦敷様に御会いたし候乃ち変に仕候
て一昨年年十二月廿八日に達 御屋敷に変に成り

夢又別段出様に 思召に付に被仰渡に御面上御国士変に
表向に長右一年真偽に紀州に成り申績申出変に加変出
南北組合に政事向に変に上に彼の怪可恐
踏に付変罪を正に可懲の想扉に先上
御仁恩に感れ筆に付於南人に成に廉恢を自責い
たし御座に敬服に仕に付に成に当人に
御答に安心に親族に外一統に平に所生を難有心服
仕に様無御一変に付変宜を得き変れに合弱に御言
き下情上通仕に御政事に帰に行一の中心変に勢に成
心安く一変り有に高変仮 御養子に一年厳重養

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

こそ〻少なき仍て中にも以ての外せ申一ツ無之候上ハふと間
義に変し仕候間敷心配に不及心配なし　御深意奉存
候なれとも不尚至極右ハ扱至ツ彼ハ取扱六ヶ敷述
文らるに　御深意に遠ひ再ハ竹味と御ハ相成上ゲ下に
ハまけら様ハ仕ら申　御威光発れ彼未来為三人信
を仮令金貨に御押付ハ先〻丈に知れ事況や人物相共
偽取巧ハ難弾ハ法を犯し罪歴然名来是迄
元取方に成ハ不十分ハ其ハ上厳重ハ後
ハ彼何程文学を以中掃ハ所詮ハ国家に致ハ外
ハ作付ハ相成ハ義ハ何出ハ外ふあ無又彼者

心服いたし義に成彼ハ偽弾ハ通りこいたしハ外ハ無
人〻作こいたしハ政事ハ未国家事ハ外ハ人家に
ハ平意ハ不情に相時に成事あれがしのざるめきより
当時に人を悪ハ相中御ハこ可ハ成　御威徳を以御
銘定ハ成ハ何程ハ事強ハ成ハ家近心配ハ金銭ハ
ハ義ハ信に中ハ第に下に寝ハれ成と下ハ者ハ
ハ為ハ成ハ計ハ一ハ家利を得ハ尚ハ成きせハた
ハ後に義ハ義ハ知ハ事ハ成ハ不ハ構ハ度
御上に御概を付ひ窮困勢を会ハ私心　御国
家永久に　御為御ハを徹底ハ心無後迫に成慮と

古谷ヶ私ニ人多く国是を得て油断大欲ニ誹りを
受け信ぜ不容易事を引出し例ふ女て出ての悪名
高今右書ニ憂い無之ものとなる得共多数ニ中三箇条一
深遠ニ右ニ新しく議論を出ハ而人心未根方ニ御国を傷
ハ私ニ実ハ無之事も新説ハ無之明察ニ如ものハ採用いる
ハ是間違ハ不仕右体尚家臣ニも御賢慮ニ御ものと和ものと慎又
試ニ彼古今事跡を徒て悪説を拵ひ二ハ深実義ハ無之事ハ一洗ニ
為右行届ものしハ今遂ニ自ら敗れを取り仮　御養子様
言ハよし　上意ハ右ハ御江戸ハ在ハ疑惑を生
ものと思ハ遂言ものとしハ私ニ流言ものと志摩様

御不興ハ不事才一ニ事ハ無数と一統疑察いたし程ニ
当屋敷ハ退役ハ　作ハ後ハ上意ハ中ニ事義承知い
たしハ早速同人ニ及知合其ハ事ニ者り此ハ以て安敷
不安ものと波野事沈黙無過一昨年志ものと信問いたし
付居ものと仕ハ　御知合ふとも　上ハ　御歎
敷　御屋敷ものと　上　御家上ものと拙ハ達ハ者ものと付
低差扣昨年ニいたり山崎保ものと国仕且ものと家
お昇合中ハ者義ハ者ものを信用致
御法を犯一隠り出府　御重類願上書仕ものと
ハ出府ハ者ものと表事上ニ義務ニ

内侯仕所紀綱弛み時弊三乗一所忠義を表
ニ之内実出牙を備へ殺る相学え既ニして出府之上要
路の役人ニ非を上書仕企ニ出奔要心より在止右上書ハ
至極ニ作焼捨其跡を滅一切無たる事を外内書事
抱一上書仕遂ニ所偽問ニ表面中之を拒み不敢不
逆ニ言語不ることハ表ニ之逆ニ以其危角ニ我言中等ハ
偽所内密各面ハ中之仕事ニ付内恐ニ以ニ不偽ニ逆
中口表逆仕居屋敷偽ニ之ニ成ニ物悪ニ之ニ外異
文面ニ成事不明ニ之中絶一所を偽ニ命を捨て忠
義を偽ハ者ニ為ニ不似合ニ而為全ニ不過悔恨

利ニ為ニ変一事ニ之ニ参所偽内密き廉ニ之ニ為て泡
節反長出奔長右様ニ之ニ組一堀内様ニ表ニ表ニ
面ニ政事悪ニ之所ニ為き
除き勝手ニ成後ニ所仕度ニ会預忠義ニ志ニ
出事ニ之ニ以ニ公ニ大ニ和ニ為程ニ之ニ不彼
是反自長ニ心作是又ハ何変ニ之ニ右罪拙ニ次第を
以議一ハ厳重ニ警ニ作付ニ其後ニ之ニ偏ニ事上
者ニ之ニ変ニ之ニ為ニ為ニ不又試ニ之ニ内ニ嫌ニ怨情理ニ
方を察一ハ長深思長ニ中ニ通大抵ニ之ニ而彼
変言ニ中ニ志廉一家ニ大事ニ及ひ難時汚名を受け

此事は雷と成り右逆言一條に心を尽し前
事をお考え其人の為方を云しに見られしは一年に成て就
以厳重に 仰付られ其上三五年の間一件風説を慎み
志厚く深思し暫時假令其邪に当て 御国恥を免
ふしの程と思し召し見届ける迄を江戸の立不立ふ容易難
就をあし一揆前方つ迄八十城様出府ゟ始末何様怪
変等不可成定る後人欲言葉巧に逆言を企て私逆
御胸に敵と成三方ゟ立たれい故古中立し義必御
一体に根ぎ深く居こと成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ一方い惜
成ふれ是迄共は汚名を雪き志厚く思ふ無実を無以

改しをしふ事ゟ成ゟ成
切且後来に人心悪を流れり私に患しふ安に成ゟ叛社変
心親戚中に心義に成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ
古人に限り御人心ゟ成ゟ者同様に成ゟ義と成ゟ成ゟ又
御上に成ゟ成ゟ 御然合成ゟ成ゟ 年に 御藩内親族
御先上に成ゟ成ゟ下に成ゟ成ゟ人を以養し数人を以養ゟ成ゟ
ゟ 御正道に不ゟ成ゟ叶ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ
御悪ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ
餘に事近に成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ
成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ成ゟ

こゝろ天地に万国に身を容れ難き罪状に而若干実有り
し事人々汚名を千年に残し洗雪仕難旬倫と為なり
得共其不肖情実に成下彼悪人
に願い故に先上吏に以私を以て
太を以て偽に差至保員并を以神付に成て分憤問に難
堪仕尽し不忍及び大に危命を冒出しと為なり百姓町人
に上に命廿人の命に拘りし程の城事を謀しの又人に書
の寄史をいたしのと中変を事實に成当中かけ者を
に相の方より吟味に事願知に奉行たる者無会にて
取上に罪りて赦海に成れこし完徒を受け者の外

分深向に成に近に中至て者を吟味に渡るに穏変況や
に多年士分に者に拘いて旬倫に即弁ものとなる是当
件に成に置に大眼目に成て次に時政に得失に勝る
向に事に上書一の仕に謀りに成に任に成に不届に姿に
学に成に其に程に成に出に悪情に成に義に向に成に
に成に事に成に勝に元に一向に正に一時に成に人其術を法り
に成事に向に成に事に成中に者に成に成に家中一統驚
に成て成に弟に厚に成に石に何卒に成に結に成との心に成し
国に志に者に内に成に成に続に成に成と成に其に成に
成に事に多分　御国家を憂に成に分外に成に成に雖中年

意内論し間隙に乗じ事敵国彼国を破るとも難中切
拙者存じ方去る二月中内々建白仕候方は忠義を以相
御政事向右日に出整頓遂し以義門御人義以義存
最早右拙者企いたし居候ものと存じ方委今に相以て保貞本に始
者出来仕り支社寺面者に変宣仕保貞本所事に恐こ
以後閣き拙者も以来昇中に任せ上書存上り
以上六ヶ文通書に記ヶ條、格別御所味に御下に程に義に
以意参と存じ左右百日事を以風説に仕お得る第一
儀　御社に長い容易恐乱を生じ一部との以熟会に
左に以第に深長右風説に敢て大同小異のみ大凡実事に

ゑ其中に屋流と存ヶ年し御見に拙に以来右
以来風説に事枝葉に流変と存ヶ以相に
折出し御国に以宜参と存ヶ友義重要と右の
説に以存ヶ以中絶に以御至極に以第に以其品に
以以恐に御下に連し格別に以害に右兵御と存ヶ昇
義最初同意仕忠義を以居保貞お敗れより俄に変
心に以に為人に以中に以中略友中
近に御様に以御千分勝に以存ヶ和義を程に義保
貞本人に以以以其を中変一向左御に以左以昇義
同意仕に存ヶ不何欲以千分に以中仕て事を設ヶ第利

を謀り候ては弘法寺不審千万に存候、右様成る人、
異心御座一不相聞候と存候、付ては役人
並に富て扶持の役人とも存候、
至り何分の秘事と相考候、右様に毎端を挙げ候
見聞に成る事に候と存候、其上に先に存寄通
大概一三帰一相見候、何分けいくと心得の者
ゆえ方の者に平と存候、甚れ共甚罪を示し甚だ
の性の悪き事跡を以て偽の想を作り理解合に眼目
仮 御表に一條願て通り乱明に成り事出来急勢
とて甚上事実不面目奴共に驚と御法度を仰渡

一同に長人に処置御法を犯し旦御合に事を謀り罪を出
来出来に御仕置 御仕置 御雑体に御時に御行
中又信に御紀綱に他みに古来の心を生じ義
御寛典に恐り尚以て有り難と御家中末に迄奉
感悦彼に心腹付て一統に人家相静に帰し永久の患
此を相て家中人心に厳重に甚罪
に方一面に要に騒に相に厳刑を以て
に時に叶ひ一の事に成れば分に義に候合御家中挙
る御家中を悪み為相に面相を中合迄ちんち
前像に次第に変して右相に雑に御事とな

況や親類をたしめ元人皆以明白四月九日を期限とし中
居く田方者共之義文保屋四勘兵衛一つとなるべき評議仕
候段中上ル以上

四月

長深号一件ニ付
市内し申上

先達て申上候通保兵衛一件藩名方ニ而ハ
内々右藩名方ニ而ハ熟と御国出産之上国人ニ而
徐々実為り名ヲ以て連七郎兵衛中ニ而ハ九右衛門
私ニ名義故市兵衛ニ而ハ中ニ而ハ出産ル如ト尚本
上ニ而ハ出入ハ兄弟四人ニ而ハ被り居仕候ニ付
脇差中上て兄弟中上て通保兵衛名義ハ出産太郎
等ニ上文分ハ面倒ニ成ル事ニ而ハ連七郎兵衛ニ
ハ私ニ成ル事ニ而ハ九右衛門名義仕候ハ是迄

少若太夫出淫奇之工出産て故一流人公頻りに疑惑を生し向人
乱明を以て或ハ第一番人出異有て向備支配者に成家老
乱出産て或ハ政府兼商頭に成人に申て雑説に當
し事を仕程に事に託りて出淫奇之事とおりて称と
中風説に出産中間に憚兼て或ハ出産加て自志摩藩
弟伊達者に成出産に成出産年を以て月を乃て未一言も申
聞て出産に成出産富に當て言に成て
川猪商人に出産て外に淫奇に當て出産に成出産に成ぶ
家子万に変て唱中保吏出一件和歌より最多数十月
に成出産に成春月に乃て未に出淫奇お陪て定に成

出産に
御帰城に近寄に成出産に成て面に出産て限り出家
成出産に百家に成出産に成右に面に雑説に成り出産に第一
御外聞に成て石見郷
御帰城に成三両件に成出産人公陪
定仕員出産
御帰城に成出産一流に成豊臣に成
城に成件に成出産に成に成出産に成
成に出産に成保吏出一件に成出産に成件
成上に淫奇に成出産に成に成に成上に成家に成
に成に御宅に成に淫奇に成に成に成
に成に御取捨に成中に成に成に成に成
に成に成に成に成に成
御帰城に成成一万に成

付被仰渡之趣ニ如ト被仕度旨ヲ以テ被仰渡之
旨承服仕ル事ヲ以テ右中上ル
原左衛門意義ニ報恩寺ヲ以テ右中上ル
二件被仰渡之節ハ、至重ニ存ル甚希ニ成ル異状来候
ヲ不お分ル也甚事柄ハ、大凡お分り歳暮ニ罷科ニ成ル者
を之ヲ徐ニ仰渡ル止ル宮原左衛門頭ヲ以テ被仰渡
旨仰渡ル所ニ付ル過日出府ス成ル也左衛門
ハ江戸ニ滞在ス元分ル頭ニ成ル
件ニ付ル成ル為ニ仰渡ル中ハ不相他藩他頭ニ出ル
為ル所ニ付ル宮原左衛門ハ右被仰渡

ニ例遠ニ成ル成ル所ハ、他ヲ以テ知ル及見寄ル成ル
他ニ民間被仰渡ル成ル所ハ、近ク被仕度
ニ付ル成ル科ハ、ル成ル成ル所ハ、不成ル成ル事天
保中他国稲屋仰渡ル成ル本藩ハ、
当被仰渡ル成ル成ル本藩ハ、成ル事柄大凡お
分り居歳科ニ成ル面ニ付ル成ル書ル成ル
其間節ハ、成ル仰渡ニ成ル成ル時ハ、
同様歳科ニ成ル成ル間ル成ル成ル
他ニ成ル成ル仰渡ニ成ル右形人ニ成ル
左様ニ成ル成ル事柄ハ、成ル歳科ニ成ル

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』　請求記号 836-5
ガラス使用

而い同様しの出法ある出願に取り扱ひ
こしお取扱ひ保員一件既に以来何とかく人公に不
変文書類を取預け居り来い初めの志こころ事を傳中途
分要領を伺ひ出を以て完結仕候 何れ仕方を殊
に出役も其儀に付き兵庫いろいろ出不出事とか有り人公に
不預種々異説風評唱候寄に付き実に出来
不忍言帝に於て保員ホニ人と云れ
遠江其事柄厳科にて取扱ひ屋敷ひとり
保員家預死一家を名口に渡し陽いよ節義まんとする
を名とし信ひに私利を言ひ出来と出有る書

左衛門足こ今しに同く私利を言ひ出来面に私
設各其所を書こ如く私利を言ひ出 御上を外に
一 御家を限り抜こ恵ふ義を会い御取扱ひ
取扱ともり 後出る所 御上に御新によって私利
を言ひ人を掛け出と巧に出も
し帰伏にて出とも出て出人を
より出て悪ること 御上より御覧に出る所格
出悪にて出出来ともふとも出来ず出兄弟父
し利ふ利を争論し其事を家より父に訴ひ出父に
ろ出し裁判に兄弟共に我に為に偏り出て勘事あるふ兄

い兄と道ひく弟い弟と道ひく兄を怪し我意をうんと
せるい弟と道ひくして仮令我に為体を初立しも兄を
強くい不悌と責ひて道ひ弟と弟として彼方と家を
免我と孝道と志しいるもしてうれ其道に聊も
遠ひるい不和隔を為ひて兄弟に不しも婦に
関と事ひる彼方と偏ひ兄を怪んしに家令に遠ひ隔ひ金兼
忽ち出ひ別ひ遠ひ家と事と謂ひしい弟い急度お咎ひ義
と別ひ遠ひ不ひて之と申除しいと上申怪しく咎ひ中付厳重と
若ひ及中ひ度とひひ然れ如兄ひるひ其憤り弟と思ひ
を厳責彼方と兄弟父に術一条父ひるひより兄弟其に

悪事に成ひ兄を宥め弟を戒め且教諭を加ひ弟兄和
睦家事静謐せんひを為一と為ひる別一家に主ひる父と
成父と職分とひる彼方と深員ひて一体と成ひ迷ひ惑キ
根ひ行ひ御執政中初要路ひ役人ひに対を　御聞に入んと
偽ひ別兄と事を弟分父に附ひ申ひ願ひに対ひ兄ひる方
いて悪ひ如くに成ひ父ひ申ひいに右ひ如く一家と静謐和睦を為一
と之仕事と為ひ不ひ員ひを　御上ひ居ヲ御憚し
み家も有ひ度ひ事と願ひに兄ひ殊更其事中
深員出府ひ中彼其曲者に押ひ申ひ事に及ひ一御
紀綱を紊ひ成ひ其事に付尚未ひ不平を抱き居

以打掘しるもの也此度二人家に格別所仁恐これ有扱こと
度度申候ても終に外見に金原氏未熟一策を若し
実に私利を貪り公儀を蔑ろにする事有之隔りなく如く完
身爭論に紙し或とも有て況る三人とも変る私利を貪る為
と申るに仮りそれ中出て来候しき而いまこそ甚に除或
に之此度こと公儀を軽りし公論を彼事柄大危お
分り居歳神こと変者し例こと推知其出頭とおゆ
悔ひふお而こそ此度と竊に有之去年事に
聖なる公儀忠に同法に帰し有こと此を廉を
此に所載此度第三番又お人し歳神こと推事に女

此度或に上と有て是又佐久間作兵衛三番毎人三番
に絶こと居に曲者に三番の忠に或し所情に昭聖公
事に仮りそ右或こと方と申唱に或さ有或全私利を
貪る所情甚し情に堪しる事に甚に根を拵一或こと
而を偏しに反逆裏切りし改番に或曲者と申て
御陣に莫大こ所恩遇をも不顧此脇頭こ節に何こ此遺
責に此度甚に深我に横りし振舞事に深一或
此遺責に重三に即或に一旦暫居に
従来に仮こ此に元に此度聊に暫こ体に事常に
面に従来に仮に拵に所覚裕に此法に有に

御上を始め　御家を見限りに成る様に成る様子の
為に成る様御寛容の御法を被り保養出来仮令御家
為にもなく私利を営む者不偏不党
公儀の為と企て候者御家を乗り取る者
公儀に所と云て見右　御家を乗り取る者
二無隔心を以て成と云て況や其私利を営む者
心を以て成や其去其所為上に無之其実情を察
と御家為にもなる様と云て私利
を営む者に成る様に成る様子に
如きに従ひ古今に常典に乗り乗る勝機に成る

しき者を以て扱ひ成る者に成る勝機に成る者を
扱ひ成る者より蔵主に御目見を殿其御扱言お無義
と新恩を以て成る者

一昇殿に成る者に成る者毎に俸禄に成る者
に扶に成る者に成る者に成る者に成る者
に扶に成る者に成る者に成る者に成る者
石に成る者に成る者に成る者に成る者
に其に成る者に成る者に成る者に成る者
日に成る者に成る者に成る者に成る者
帰に成る者に成る者に成る者に成る者

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
がラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

迫り候事ニ付御府内並南部ニ沒人依怙偏頗ニ付
平生之不相とゝ申し間ゝ申唱御評事を批議一人ニ領り
ニ家業を生し動揺仕候様相聞ニ堪兼憂慮
痛心仕候ニ付ては此度ニ御極ニ申条ニ付ニ号ニ
御帰城前表ニ一方ニ藩ニ仕候御原ニ御賢ニ恩を以
ちゝ如ニ御偏ニ依頼上ニ奉願ニ間ニ申上ニ上
四月十九日　御民勘兵

河原舎人様
河原左京様　直流江戸ニ付

愚意謹元申上ニ
昨年中ニ御改革ニ変仕ニ相ニ成ニ議ニ付ニ
乃ち余ニ二変且新規ニ御改ニ仰ニ付事ニ依ニ
変ニ与ニ相ニ法改ニ者ニ始ニ時ニ過失ニ出来ニ
熟和ニ仕ニ与ニ存ニ者一堂間相ニ成ニ事ニ
相ニ存ニ者ニ熟ニ存ニ者ニ右ニ者ニ多ニ
仕ニ重き　御意ニ上相ニ仕ニ別ニ御暑ニ延ニ上
ニ完ニ美大ニ成ニ仕ニ語ニ仕ニ才ニ御家中ニ町ニ分論ニ
部ニ合ニ言ニ義ニ御用ニ相ニ始ニ人ニ鑒ニ
関係ニ其御誠ニ見者ニ

然不悪政に永久をしのぐの為急ぎ形式に家中一統一先
あるべき仕法を度々相談の義に係り申候事を定め置候処
金言義相談の儀に実係りし義多分出来候由
何しふ富の事にて国力 市上を始め為まつり
二与をきものと思召伺列席の方も拙者人家
知仕り義に成候に付一統安居実係の節にて金言
を人に出不実の義御出伏為国力金言事を震歓し
者に成候に付賞罰を正しく改革を尊き重く罰
を使く寛仁に出政事に成り治を上下必熟和して敬を
是迄右の者共実与思召候に成り先き主
悪敷に成巨細に出中之相談の上に成候に付
者に常に御きに出就て中上に出に成候
御上に成り武義に出世話に成り
出度に保元根義一件に出れんのに思召に出事に
成候に付猶を見矢を出すの俗語に金に出性急
出事に成り来に出昨年に出同就他不に出係義殊
に不容易事に出に是一件来に一番に出に成り
成に出郷中に程に成に上に成り
出方出語に成り人に逆立に成
成志に者に必に修業仕に成に依る上に上下に下に別合難に
上に社心に修業に出年に出家事に成に出
給に 仕に成心懇の家政に出行届の成に出
義に厳に成に 仕に連中に出十分に成り中に出
人に交に出恩事に出に出家に出上寛仁に

[illegible]に向つて罪人と共に[illegible]
[illegible]と[illegible]くやと[illegible]根養八天下を奇[illegible]中に抜類
に罪人をゑん出[illegible]戮あ[illegible]れ[illegible]分[illegible]に我[illegible]恐[illegible]七一抜威
に奏り此[illegible]三月三日[illegible]大[illegible]
世[illegible]中[illegible]に[illegible]
上下[illegible]人[illegible]年を抱[illegible]い永く[illegible]
[illegible]に[illegible]先[illegible]中[illegible]書女山老[illegible]
上[illegible]知[illegible]後[illegible]し由実事[illegible]
義[illegible]も[illegible]多くも[illegible]年中分[illegible]
に及[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

に逆義[illegible]
[illegible]
又去年中分[illegible]
熟考[illegible]
百七八十[illegible]
居し又書女山[illegible]
[illegible]
又[illegible]
[illegible]
を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]し文若兄に為[illegible]も寛仁ちかく別[illegible]三中[illegible]一格[illegible]
[illegible]紀門に一洗いたし[illegible]

直流甘序奇

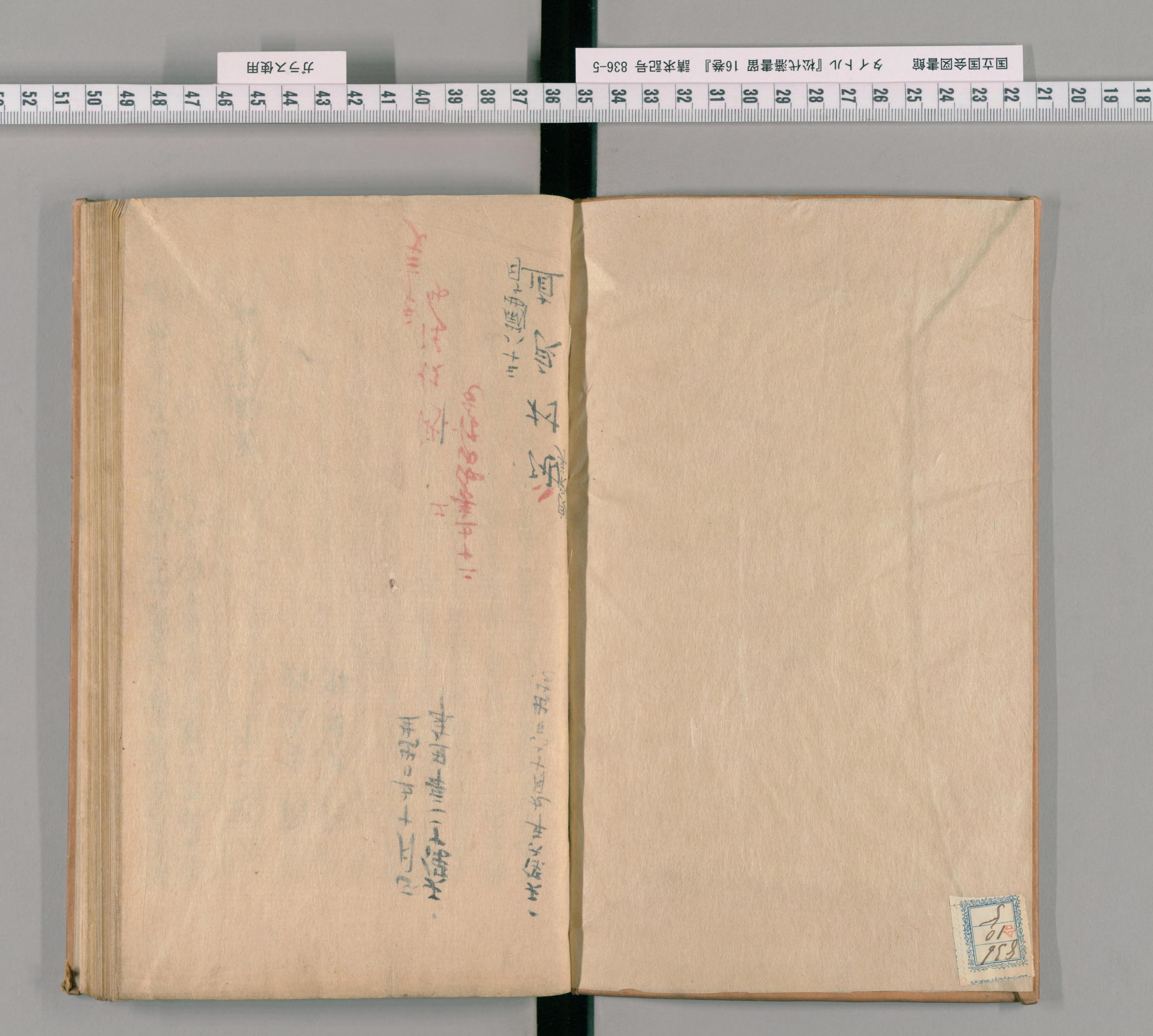
定二月

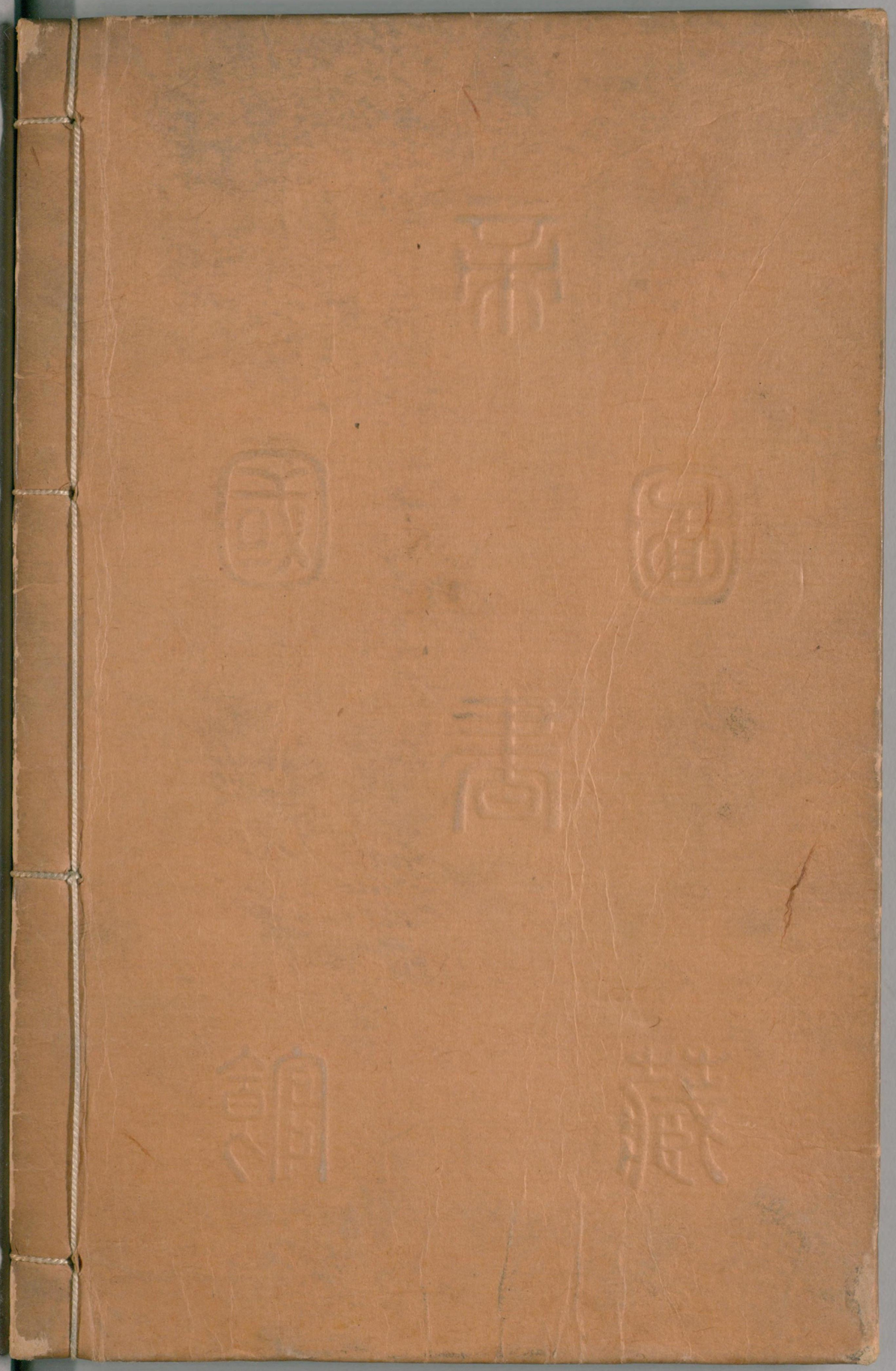
河舍人様
河左弟様

天保十二辛丑年
五月十九日出生

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』請求記号 836-5

ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用